

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 9月24日

出願番号

Application Number:

特願2002-277581

[ST.10/C]:

[JP2002-277581]

出願人

Applicant(s):

トヨタ自動車株式会社

2003年 6月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3043352

【書類名】 特許願

【整理番号】 PA14F231

【提出日】 平成14年 9月24日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 F01L 13/00
F02D 13/02

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

【氏名】 橋爪 明

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

【氏名】 平工 恵三

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

【氏名】 金井 弘

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

【氏名】 中坂 幸博

【特許出願人】

【識別番号】 000003207

【氏名又は名称】 トヨタ自動車株式会社

【代理人】

【識別番号】 110000028

【氏名又は名称】 特許業務法人 明成国際特許事務所

【代表者】 下出 隆史

【電話番号】 052-218-5061

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 133917

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0105457

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 可変動弁機構を有する内燃機関におけるロッキング制御

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 吸気弁の作用角の大きさと開弁期間の位相とを変更可能な可変動弁機構を備える内燃機関を制御するための制御装置であって、

前記内燃機関のロッキング発生の有無を検出するためのロックセンサと、

前記ロックセンサによってロッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁期間の位相調整を含む複数のロッキング対策のうちの少なくとも 1 つを選択的に実行可能な制御部と、

を備え、

前記制御部は、前記吸気弁の作用角が 1 8 0 度未満の場合に、前記吸気弁の開弁時期が、上死点から所定の角度分だけ遅角した所定の時期を越えないように、ロッキング対策を選択して実行するロッキング制御モードを有する、内燃機関の制御装置。

【請求項 2】 請求項 1 記載の制御装置であって、

前記ロッキング制御モードは、ロッキングの発生時に前記吸気弁の開弁時期が上死点の後に存在するときに、前記吸気弁の開弁時期を進角させるサブモードを有する、制御装置。

【請求項 3】 請求項 2 記載の制御装置であって、

前記吸気弁の開弁時期の進角は、前記吸気弁の作用角を保った状態で開弁期間の位相を進角させることによって実行される、制御装置。

【請求項 4】 請求項 2 記載の制御装置であって、

前記吸気弁の開弁時期の進角は、前記吸気弁の作用角を拡大することによって実行される、制御装置。

【請求項 5】 請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の制御装置であって、

前記制御部は、前記ロッキング制御モードにおいて、前記吸気弁の開弁時期が上死点から所定の角度分だけ遅角した所定の時期を越えず、かつ、前記吸気弁の開弁時期が下死点近傍の所定の範囲に入らないようにロッキング対策を選択する、制御装置。

【請求項 6】 請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の制御装置であって、
前記制御部は、ノッキングの非発生時において、前記吸気弁の開弁時期と閉弁時期とに応じて点火プラグの点火時期を補正する、制御装置。

【請求項 7】 請求項 6 記載の制御装置であって、
前記制御部は、前記吸気弁の開弁時期が上死点よりも遅くなるほど、かつ、前記吸気弁の閉弁時期が下死点に近いほど、点火時期を遅く設定する、制御装置。

【請求項 8】 吸気弁の作用角の大きさと開弁期間の位相とを変更可能な可変動弁機構を備える内燃機関を制御するための制御装置であって、

前記内燃機関のノッキング発生の有無を検出するためのノックセンサと、
前記ノックセンサによってノッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁期間の位相調整を含む複数のノッキング対策のうちの少なくとも 1 つを選択的に実行可能な制御部と、
を備え、

前記制御部は、前記ノックセンサによってノッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁時期と閉弁時期の設定が、

i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の手前で、かつ、閉弁時期が下死点の手前である第 1 の設定状態と、

i i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の後で、かつ、閉弁時期が下死点の手前である第 2 の設定状態と、

i i i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の手前で、かつ、閉弁時期が下死点の後である第 3 の設定状態と、

i v) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の後で、かつ、閉弁時期が下死点の後である第 4 の設定状態と、

のいずれであるかを判定するとともに、

上記第 1 ないし第 4 の設定状態に対してそれぞれ予め選択されたノッキング対策を実行する、内燃機関の制御装置。

【請求項 9】 請求項 8 記載の制御装置であって、
前記制御部は、前記ノックセンサによってノッキングの発生が検出されたときに前記吸気弁が前記第 2 の設定状態にあるときには、前記吸気弁の開弁時期を進

角させるロッキング制御モードを有する、制御装置。

【請求項 1 0】 吸気弁の作用角の大きさと開弁期間の位相とを変更可能な可変動弁機構を備える内燃機関を制御するための制御方法であって、

(a) 前記内燃機関のロッキング発生の有無を検出する工程と、

(b) ロッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁期間の位相調整を含む複数のロッキング対策のうちの少なくとも 1 つを選択的に実行する工程と

、
を備え、

前記工程 (b) は、前記吸気弁の作用角が 1 8 0 度未満の場合に、前記吸気弁の開弁時期が、上死点から所定の角度分だけ遅角した所定の時期を越えないように、ロッキング対策を選択して実行するロッキング制御モードを実行する工程を含む、

内燃機関の制御方法。

【請求項 1 1】 吸気弁の作用角の大きさと開弁期間の位相とを変更可能な可変動弁機構を備える内燃機関を制御するための制御方法であって、

(a) 前記内燃機関のロッキング発生の有無を検出する工程と、

(b) ロッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁期間の位相調整を含む複数のロッキング対策のうちの少なくとも 1 つを選択的に実行する工程と

、
を備え、

前記工程 (b) は、

ロッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁時期と閉弁時期の設定が、

i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の手前で、かつ、閉弁時期が下死点の手前である第 1 の設定状態と、

i i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の後で、かつ、閉弁時期が下死点の手前である第 2 の設定状態と、

i i i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の手前で、かつ、閉弁時期が下死点の後である第 3 の設定状態と、

i v) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の後で、かつ、閉弁時期が下死点の後である第 4 の設定状態と、

のいずれであるかを判定する工程と、

上記第 1 ないし第 4 の設定状態に対してそれぞれ予め選択されたノッキング対策を実行する工程と、

を含む、内燃機関の制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、可変動弁機構を有する内燃機関におけるノッキング制御技術に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来から、ガソリンエンジンに関する種々のノッキング制御技術が提案されている。通常のノッキング対策としては、点火時期の遅角が知られている。また、特許文献 1（特開平 1 1 - 3 2 4 7 6 2 号公報）には、ノッキング発生時に吸気弁の閉弁時期を遅角させる技術が開示されている。特許文献 2（特開平 1 1 - 1 9 0 2 3 6 号公報）には、ノッキング発生状況に応じて吸気弁の開弁期間の位相を遅角または進角する技術が開示されている。また、特許文献 3（特開平 6 - 1 2 9 2 7 1 号公報）には、ノッキングの程度に応じて吸気弁の閉弁時期を変更する技術が開示されている。

【特許文献 1】 特開平 1 1 - 3 2 4 7 6 2 号公報（要約）

【特許文献 2】 特開平 1 1 - 1 9 0 2 3 6 号公報（要約）

【特許文献 3】 特開平 6 - 1 2 9 2 7 1 号公報（要約）

【0003】

ところで、吸気弁の機構としては、開弁期間の大きさ（いわゆる作用角）と、開弁期間の位置（「開弁期間の位相」とも呼ぶ）との両方を変更な可変動弁機構が知られている。このような可変動弁機構を用いると、軽負荷の際に、吸気系のスロットル弁を絞る代わりに作用角を小さくすることによって、吸入空気量を低

下させることができる。こうすると、吸気系の抵抗が低下するのでポンプ損失が低下し、熱効率を向上させることができる。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

従来は、このような可変動弁機構を有する内燃機関におけるロッキング制御については、あまり工夫されていないのが実情であった。通常の内燃機関では、吸気弁の作用角が $220^{\circ} \sim 240^{\circ}$ であるのに対して、可変動弁機構を有する内燃機関では、吸気弁の作用角が 180° 未満に設定される場合がある。吸気弁の作用角が 180° 未満の場合には、作用角が 200° 以上ある場合とは、開弁期間の位相の進角や遅角によるロッキング抑制効果が大きく異なる。しかし、従来は、作用角を 180° 未満に設定し得る内燃機関において、どのようなロッキング対策を行えば良いかについては、十分に工夫されていないのが実情であった。

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記課題を解決するためになされたものであり、可変動弁機構を有する内燃機関において、ロッキングをより十分に抑制するための技術を提供することを目的とする。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段およびその作用・効果】

上記課題を解決するために、本発明による第 1 の制御装置は、吸気弁の作用角の大きさと開弁期間の位相とを変更可能な可変動弁機構を備える内燃機関を制御するための制御装置であって、

前記内燃機関のロッキング発生の有無を検出するためのノックセンサと、

前記ノックセンサによってロッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁期間の位相調整を含む複数のロッキング対策のうちの少なくとも 1 つを選択的に実行可能な制御部と、

を備え、

前記制御部は、前記吸気弁の作用角が 180° 未満の場合に、前記吸気弁の開弁時期が、上死点から所定の角度分だけ遅角した所定の時期を越えないように、ロッキング対策を選択して実行するロッキング制御モードを有する。

【 0 0 0 7 】

発明者らは、吸気弁の作用角が180度未満のときに、吸気弁の開弁時期が上死点から遅角するほどノッキングが発生し易くなる場合があることを見いだした。上記制御装置では、吸気弁の開弁時期が上死点から所定の角度分だけ遅角した所定の時期を越えないようにノッキング対策を選択するようにしたので、吸気弁の開弁時期の遅角によってノッキングが発生し易くなることを防止でき、ノッキングをより十分に抑制することが可能になる。

【 0 0 0 8 】

前記ノッキング制御モードは、ノッキングの発生時に前記吸気弁の開弁時期が上死点の後に存在するときに、前記吸気弁の開弁時期を進角させるサブモードを有することが好ましい。

【 0 0 0 9 】

この構成によれば、吸気弁の開弁時期の遅角によってノッキングが発生し易くなることを確実に防止することができる。

【 0 0 1 0 】

なお、前記吸気弁の開弁時期の進角は、前記吸気弁の作用角を保った状態で開弁期間の位相を進角させることによって実行されても良く、あるいは、前記吸気弁の作用角を拡大することによって実行されても良い。

【 0 0 1 1 】

前記制御部は、前記ノッキング制御モードにおいて、前記吸気弁の開弁時期が上死点から所定の角度分だけ遅角した所定の時期を越えず、かつ、前記吸気弁の開弁時期が下死点近傍の所定の範囲に入らないようにノッキング対策を選択することが好ましい。

【 0 0 1 2 】

吸気弁の開弁時期が下死点近傍にあると、ノッキングが発生し易いことが知られている。そこで、閉弁時期についても、下死点近傍の所定の範囲に入らないようにすることによって、ノッキングの発生をより十分に抑制することができる。

【 0 0 1 3 】

前記制御部は、ノッキングの非発生時において、前記吸気弁の開弁時期と閉弁

時期とに応じて点火プラグの点火時期を補正するようにしてもよい。

【 0 0 1 4 】

吸気弁の作用角を変更可能な場合には、ノッキングを抑制するための適切な点火時期が、吸気弁の開弁時期と閉弁時期の両方に依存する。従って、ノッキングの非発生時にもこれらの両方に応じて点火プラグの点火時期を補正するようにすれば、ノッキングの発生をより良く回避することができる。

【 0 0 1 5 】

前記制御部は、前記吸気弁の開弁時期が上死点よりも遅くなるほど、かつ、前記吸気弁の閉弁時期が下死点に近いほど、点火時期を遅く設定することが好ましい。

【 0 0 1 6 】

ノッキングは、吸気弁の開弁時期が上死点よりも遅くなるほど、かつ、吸気弁の閉弁時期が下死点に近いほど発生し易い傾向にある。従って、上記のような点火時期の設定を行えば、ノッキングの発生を抑制することが可能である。

【 0 0 1 7 】

本発明による第 2 の制御装置は、吸気弁の作用角の大きさと開弁期間の位相とを変更可能な可変動弁機構を備える内燃機関を制御するための制御装置であって

前記内燃機関のノッキング発生の有無を検出するためのノックセンサと、

前記ノックセンサによってノッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁期間の位相調整を含む複数のノッキング対策のうちの少なくとも 1 つを選択的に実行可能な制御部と、

を備え、

前記制御部は、前記ノックセンサによってノッキングの発生が検出されたときに、前記吸気弁の開弁時期と閉弁時期の設定が、

i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の手前で、かつ、閉弁時期が下死点の手前である第 1 の設定状態と、

i i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の後で、かつ、閉弁時期が下死点の手前である第 2 の設定状態と、

i i i) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の手前で、かつ、閉弁時期が下死点の後である第 3 の設定状態と、

i v) 前記吸気弁の開弁時期が上死点の後で、かつ、閉弁時期が下死点の後である第 4 の設定状態と、

のいずれであるかを判定するとともに、

上記第 1 ないし第 4 の設定状態に対してそれぞれ予め選択されたロッキング対策を実行する。

【0018】

上記の 4 つの設定状態では、適切なロッキング対策が異なる。そこで、4 つの設定状態に対して予め適切なロッキング対策を設定しておき、ロッキング発生時の吸気弁の設定状態に応じて適切なロッキング対策を選択して実行することによって、ロッキングの発生を効率的に抑制することができる。

【0019】

前記制御部は、前記ロックセンサによってロッキングの発生が検出されたときに前記吸気弁が前記第 2 の設定状態にあるときには、前記吸気弁の開弁時期を進角させるロッキング制御モードを有するようにしてもよい。

【0020】

第 2 の設定状態にあるときには、吸気弁の作用角が 180° 未満になっているので、開弁時期が遅くなるほどロッキングが発生しやすくなる場合がある。そこで、このときには、開弁時期を進角させることによって、ロッキングを十分に抑制することが可能である。

【0021】

なお、本発明は、種々の態様で実現することが可能であり、例えば、内燃機関の制御装置または制御方法、その制御装置または制御方法の機能を実現するためのコンピュータプログラム、そのコンピュータプログラムを記録した記録媒体、そのコンピュータプログラムを含み搬送波内に具現化されたデータ信号、等の態様で実現することができる。

【0022】

【発明の実施の形態】

本発明の実施の形態について、実施例に基づいて以下の順序で説明する。

- A. 装置構成：
- B. ノッキング対策の第 1 実施例：
- C. ノッキング対策の第 2 実施例：
- D. ノッキング対策の第 3 実施例：
- E. ノッキング対策の第 4 実施例：
- F. ノッキング対策の第 5 実施例：
- G. 変形例：

【 0 0 2 3 】

- A. 装置構成：

図 1 は、本発明の一実施例としての制御装置の構成を示している。この制御装置は、車両に搭載されたガソリンエンジン 1 0 0 を制御する装置として構成されている。エンジン 1 0 0 は、吸気管 1 1 0 からガソリンと空気の混合気を吸気し、点火プラグ 1 0 2 で混合気に点火して燃焼させ、排気を排気管 1 2 0 から外部に排出する。吸気管 1 1 0 には、混合気の量を調整するためのスロットル弁 1 1 1 が設けられている。吸気管 1 1 0 に燃料を噴射する機構は図示が省略されている。なお、燃料を、直接燃焼室内に噴射するようにしてもよい。排気管 1 2 0 には、排気中の有害成分を除去するための触媒 1 2 4 が設けられている。

【 0 0 2 4 】

エンジン 1 0 0 への吸気および排気の工程は、吸気弁 1 1 2 と排気弁 1 2 2 の開閉状態によって切り換えられる。吸気弁 1 1 2 には、その開閉タイミングを調整するための可変動弁機構 1 1 4 が設けられている。この可変動弁機構 1 1 4 は、吸気弁 1 1 2 の開弁期間の大きさ（いわゆる作用角）と、開弁期間の位置（「開弁期間の位相」あるいは「V V T (Variable Valve Timing) 位置」とも呼ぶ）とを変更である。このような可変動弁機構としては、例えば本出願人により開示された特開 2 0 0 1 - 2 6 3 0 1 5 号公報に記載されたものを利用することができる。

【 0 0 2 5 】

エンジン 1 0 0 の運転は、制御ユニット 1 0 によって制御される。制御ユニッ

ト 1 0 は、内部に CPU、RAM、ROM を備えるマイクロコンピュータとして構成されている。この制御ユニット 1 0 には、種々のセンサからの信号が供給されている。これらのセンサには、ノッキングの発生を検出するためのノックセンサ 1 0 4 と、エンジン水温を検出する水温センサ 1 0 6 と、エンジン回転数を検出する回転数センサ 1 0 8 と、アクセルポジションを検出するアクセルセンサ 1 0 9 と、が含まれている。

【 0 0 2 6 】

制御ユニット 1 0 の図示しないメモリには、吸気弁 1 1 2 の開弁期間の位相（すなわち V V T 位置）を設定するための V V T マップ 1 2 と、吸気弁 1 1 2 の作用角を設定するための作用角マップ 1 4 と、点火プラグ 1 0 2 の点火時期を設定するための点火時期マップ 1 6 とが記憶されている。これらのマップは、エンジン 1 0 0 の回転数や負荷、エンジン水温などに応じて可変動弁機構 1 1 4 や点火プラグ 1 0 2 の動作状態を設定するために使用される。制御ユニット 1 0 のメモリには、さらに、ノッキング対策を決定するためのノッキング対策テーブル 1 8 が格納されている。制御ユニット 1 0 は、このノッキング対策テーブル 1 8 を参照することによって、適切なノッキング対策を選択する。ノッキング対策の選択については、後で詳述する。

【 0 0 2 7 】

図 2 は、可変動弁機構 1 1 4 による吸気弁 1 1 2 の開弁／閉弁タイミングの調整の様子を示している。この可変動弁機構 1 1 4 では、開弁期間の大きさ（作用角）は、弁軸のリフト量を変えることによって調整される。また、開弁期間の位相（開弁期間の中心）は、可変動弁機構 1 1 4 が有する V V T 機構（可変バルブタイミング機構）を用いて調整される。なお、この可変動弁機構 1 1 4 は、吸気弁 1 1 2 の作用角と、開弁期間の位相とを独立に変更可能である。従って、エンジン 1 0 0 の運転状態に応じて、吸気弁 1 1 2 の作用角と、開弁期間の位相とがそれぞれ好ましい状態に設定される。

【 0 0 2 8 】

B. ノッキング対策の第 1 実施例：

図 3（A）は、ノッキング対策の第 1 実施例における吸気弁の開弁時期 I V O

の禁止期間を示している。第 1 実施例では、ノッキング対策時に、吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O が、上死点 T D C から所定の角度 α だけ遅角した所定の時期 ($T D C + \alpha$) 以降になることが禁止される。ここで、角度 α はゼロでない正の値である。なお、本明細書において、「角度」とはクランク角度を意味している。図 3 (B) は、第 1 実施例におけるノッキング対策の一例を示している。この例では、作用角 θ が 180° 未満である。この状態でノッキングが発生したときには、V V T 機構によって開弁期間が遅角する。このとき、作用角 θ の大きさは同一に保たれる。そして、開弁時期 I V O が ($T D C + \alpha$) 近傍まで遅角してもノッキングが停止しない場合には、他のノッキング対策（点火時期の調整や燃料噴射時期の調整など）が実行される。

【 0 0 2 9 】

このように、吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O を制限するのは以下のような理由による。図 4 は、作用角が 180° よりも大きな場合の V V T 遅角の様子と、作用角が 180° よりも小さな場合の V V T 遅角の様子とを示している。大作用角（通常は作用角が 230° 程度）の場合には、V V T 遅角を行っても開弁時期 I V O は上死点 T D C よりも手前にあるのが普通である。一方、小作用角（作用角が 180° 未満）の場合には、V V T 遅角を行うと開弁時期 I V O が上死点 T D C よりもかなり遅くなる。

【 0 0 3 0 】

小作用角のときに開弁時期 I V O が上死点 T D C から過度に遅くなると、以下のような理由によって、逆にノッキングが発生しやすくなる傾向にある。

(1) 開弁時期 I V O に至るまでの間に燃焼室内に残留している少量の排気ガスがシリンダ壁で暖められ、この結果、圧縮工程での混合気温度が上昇してノッキングが発生し易くなる。

(2) 開弁時期 I V O が遅くなる結果、開弁時の新気流入時において新気の運動エネルギーが絞り損失により多量に摩擦熱に代わり、この結果、圧縮工程での混合気温度が上昇してノッキングが発生し易くなる。

【 0 0 3 1 】

また、小作用角の場合には、吸気弁と排気弁の開弁期間のオーバーラップが無

いため、VVT遅角による内部EGR効果（排気ガス残留による燃焼温度の低下効果）の増大が期待できない。この効果により、開弁時期IVOが上死点TDCから過度に遅角するとノッキングが発生し易くなるという傾向が維持される。

【0032】

そこで、第1実施例では、吸気弁112の開弁時期IVOが($TDC + \alpha$)を越えないように制限しており、VVT遅角によって開弁時期IVOが($TDC + \alpha$)を越える場合には、VVT進角以外のノッキング対策が実行される。なお、開弁時期IVOの禁止期間を規定する角度 α は、一定値でも良いが、エンジン100の運転状態（回転数、負荷、エンジン水温など）に応じて異なる値を予め設定しておくことが好ましい。

【0033】

図5は、ノッキング対策の第1実施例の処理手順を示すフローチャートである。制御ユニット10は、ノックセンサ104の出力信号に基づいて、ノッキングが発生しているか否かを判断する（ステップS1）。ノッキングが発生している場合には、VVT遅角を行うと仮定したときに吸気弁112の開弁期間IVOが禁止期間($TDC + \alpha$ 以降)に入るか否かが判断される（ステップS2）。VVT遅角を行っても開弁期間IVOが禁止期間に入らない場合には、作用角を保ったままVVT遅角を行う（ステップS3）。一方、VVT遅角を行うと開弁期間IVOが禁止期間に入ってしまう場合には、VVT遅角を行わず、他のノッキング対策（例えば点火時期調整）を実行する（ステップS4）。但し、ノッキング対策の結果、VVT位置や点火時期に関して予め設定されているガード（禁止領域）に抵触する場合には、そのノッキング対策の実行を中止する（ステップS5、S6）。これは、主としてエンジンの失火を防止するためである。ノッキング対策の結果、ノッキングが停止したときには図5の処理を完了する（ステップS7）。一方、ノッキングが停止していなければ、ステップS2に戻ってステップS2～S7の処理を繰り返す。

【0034】

このように、第1実施例では、ノッキング対策によって吸気弁112の開弁時期IVOが($TDC + \alpha$)を越えることがないように吸気弁112のタイミング

を制限しているので、ノッキング対策を行った結果として、却ってノッキングが発生し易い状態になることを防止できる。このような効果は、特に吸気弁 1 1 2 の作用角が 180° 未満の場合に顕著であるが、吸気弁 1 1 2 の作用角が 180° 以上の場合にもこのような制限を設けることが可能である。

【 0 0 3 5 】

C. ノッキング対策の第 2 実施例：

図 6 (A) は、ノッキング対策の第 2 実施例における吸気弁の開弁時期 I V O と閉弁時期 I V C の禁止期間を示している。第 2 実施例では、第 1 実施例で説明した開弁時期 I V O の禁止期間に加えて、閉弁時期 I V C の禁止期間が設定されている。閉弁時期 I V C の禁止期間は、下死点 B D C 近傍の所定の範囲 ($B D C \pm \beta$) である。ここで、角度 β はゼロでない正の値である。この角度 β は、一定値でも良いが、エンジン 1 0 0 の運転状態 (回転数、負荷、エンジン水温など) に応じて異なる値を予め設定しておくことが好ましい。

【 0 0 3 6 】

吸気弁 1 1 2 の閉弁時期 I V C が下死点 B D C に極めて近くなると、実圧縮比が高くなってノッキングが発生し易くなる。そこで、第 2 実施例では、閉弁時期 I V C に関しても禁止期間を設けることによって、ノッキングの抑制効果を更に高めている。なお、小作用角 (作用角が 180° 以下) の場合には、吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O の禁止期間によるノッキング抑制効果の方が、閉弁時期 I V C の禁止期間によるノッキング抑制効果よりもかなり大きいことが判明した。従って、上述した第 1 実施例のように、開弁時期 I V O の禁止期間のみによってもかなりのノッキング抑制効果が期待できるが、これに加えて、閉弁時期 I V C に関しても禁止期間を設けることがより好ましい。

【 0 0 3 7 】

図 6 (B) は、第 2 実施例において作用角 θ が 180° よりも大きい場合のノッキング制御モードを示している。この状態でノッキングが発生したときには、作用角 θ が保持されたまま V V T 遅角する。そして、開弁時期 I V O が ($T D C + \alpha$) 近傍まで遅角してもノッキングが停止しない場合には、他のノッキング対策 (点火遅角など) が実行される。

【 0 0 3 8 】

図 6 (C) は、第 2 実施例において作用角 θ が 180° よりも小さい場合のノッキング制御モードを示している。この状態でノッキングが発生したときには、VV T 遅角せずに逆に VV T 進角し、開弁時期 IVO と閉弁時期 IVC の禁止期間に抵触しないようにしている。なお、ある程度の VV T 進角によってもノッキングが停止しない場合には、他のノッキング対策（点火時期の遅角など）が実行される。この例のように、作用角 θ が 180° 未満の場合に VV T 遅角をおこなわずに逆に VV T 進角するようにすれば、開弁時期 IVO の遅角によってノッキングが逆に発生し易くなってしまうという現象を確実に防止することができる。従って、ノッキング発生をより確実に抑制するという意味からは、図 3 (B) に示した第 1 実施例のノッキング対策よりも、図 6 (C) に示した第 2 実施例のノッキング対策の方がより好ましい。

【 0 0 3 9 】

図 7 は、ノッキング対策の第 2 実施例の処理手順を示すフローチャートである。制御ユニット 10 は、ノッキングが発生している場合には、吸気弁 112 の作用角が 180° 未満か否か（すなわち小作用角か大作用角かを判断する（ステップ S11, S12）。小作用角の場合には、VV T 進角または点火遅角を行う（ステップ S13）。一方、大作用角の場合には、VV T 遅角または点火遅角を実行する（ステップ S14）。ステップ S15～S17 は、図 5 のステップ S5～S7 と同じなので説明を省略する。

【 0 0 4 0 】

このように、第 2 実施例では、ノッキング対策を選択する際に、吸気弁 112 の開弁時期 IVO が $(TDC + \alpha)$ を越えることがなく、かつ、閉弁時期 IVC が $(BDC \pm \beta)$ の範囲に入らないように吸気弁 112 のタイミングを制限しているため、ノッキング対策を行った結果として、却ってノッキングが発生し易い状態になることをより効果的に防止できる。

【 0 0 4 1 】

D. ノッキング対策の第 3 実施例：

図 8 は、ノッキング対策の第 3 実施例を示している。図 8 (A), (B) は、

前述した第 2 実施例の図 6 (A), (B) と同じものである。図 8 (C) に示すように、第 3 実施例の小作用角に対するロッキング制御モードでは、作用角を拡大することによって、開弁時期 IVO を進角させている。この際、開弁時期 IVO と閉弁時期 IVC が、いずれも禁止期間に抵触しないようにすることができる。なお、作用角の拡大の結果として、作用角が 180° 以上になることが許容されていることが好ましい。作用角をある程度拡大してもロッキングが停止しない場合には、他のロッキング対策（点火時期調整など）が実行される。

【 0 0 4 2 】

図 9 は、ロッキング対策の第 3 実施例の処理手順を示すフローチャートである。この処理手順は、図 7 のステップ S 1 3 をステップ S 1 3 a で置き換えた以外は、図 7 の処理手順と同じである。第 3 実施例においてロッキングが発生したときに、吸気弁が小作用角である場合には、作用角の拡大または点火遅角（あるいはその両方）によってロッキングを抑制する。なお、この場合に、ステップ S 1 5 において、作用角の大きさ自体にガードを設けてもよい。

【 0 0 4 3 】

このように、第 3 実施例では、吸気弁 1 1 2 の作用角を必要に応じて拡大するようにしたので、これによって開弁時期 IVO と閉弁時期 IVC がそれぞれの禁止期間に入らないように開弁期間を容易に調整することが可能である。この結果、ロッキングをさらに効率的に抑制することができるという利点がある。

【 0 0 4 4 】

E. ロッキング対策の第 4 実施例：

図 1 0 は、ロッキング対策の第 4 実施例の処理手順を示すフローチャートである。ステップ S 2 1, S 2 5 ~ S 2 7 は、図 5 のステップ S 1, S 5 ~ S 7 と同じである。第 4 実施例では、ロッキングが発生したときに、吸気弁 1 1 2 の開弁時期 IVO の位置と閉弁時期 IVC の位置の 4 種類の組合せに応じて、それぞれ以下のロッキング制御モードが実行される（ステップ S 2 2）。

【 0 0 4 5 】

i) 開弁時期 IVO が上死点 TDC の手前で、かつ、閉弁時期 IVC が下死点 BDC の手前である第 1 の設定状態のとき：点火遅角

i i) 開弁時期 I V O が上死点 T D C の後で、かつ、閉弁時期 I V C が下死点 B D C の手前である第 2 の設定状態のとき：V V T 進角

i i i) 開弁時期 I V O が上死点 T D C の手前で、かつ、閉弁時期 I V C が下死点 B D C の後である第 3 の設定状態のとき：V V T 遅角

i v) 開弁時期 I V O が上死点 T D C の後で、かつ、閉弁時期 I V C が下死点 B D C の後である第 4 の設定状態のとき：点火遅角

【 0 0 4 6 】

図 1 0 の右下に、上記 4 つの設定状態 i) ~ i v) が例示されている。第 2 の設定状態 i i) では、作用角は常に 180° 未満である。そこで、第 2 の設定状態 i i) でノッキングが発生したときには、V V T 進角を行うことによって、開弁時期 I V O と閉弁時期 I V C とが図 6 (A) に示した禁止期間に入らないように工夫している。これは、第 2 実施例の図 6 (C) と同じノッキング対策である。この代わりに、第 3 実施例の図 8 (C) に示したような作用角の拡大を行うことによって、開弁時期 I V O を進角させてもよい。

【 0 0 4 7 】

第 1 と第 4 の設定状態 i) , i v) では作用角が 180° 未満になる場合がある。そこで、第 1 と第 4 の設定状態 i) , i v) では、V V T 制御を行わずに、点火遅角を実行することによって、開弁時期 I V O と閉弁時期 I V C とがそれぞれ禁止期間に入らないようにしている。また、第 3 の設定状態 i i i) では、作用角は常に 180° 以上なので、V V T 進角を行うことによってノッキングを抑制する。

【 0 0 4 8 】

このように、吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O の位置と閉弁時期 I V C の位置の 4 つの組合せに応じて、それぞれ予め適切なノッキング対策を選択しておくようにすれば、吸気弁 1 1 2 の開弁期間の設定状態に応じたそれぞれ適切なノッキング対策を選択的に実行することが可能である。

【 0 0 4 9 】

なお、上述した 4 つの設定状態 i) ~ i v) のそれぞれにおけるノッキング対策は一例であり、これ以外の種々のノッキング対策をそれぞれ割り当てるように

しても良い。但し、これらの4つの設定状態 i) ~ i v) に対するノッキング対策のうち、少なくとも1つの設定状態に対するノッキング対策は、他の設定状態に対するノッキング対策と異なることが好ましい。特に、常に小作用角となる第2の設定状態 i i) と、常に大作用角となる第3の設定状態 i i i) には、異なるノッキング対策が選択されていることが好ましい。

【 0 0 5 0 】

F. ノッキング対策の第5実施例：

図11は、第5実施例におけるノッキング対策の内容を示す説明図である。第5実施例では、ノッキングが発生する前から、点火プラグ102の点火時期を調整しておくことによって、ノッキングの発生を抑制する。すなわち、図11(A)に示すように、吸気弁112の開弁時期 I V O が遅角するほど点火時期が遅くなり、また、閉弁時期 I V C が下死点 B D C に近づくほど点火時期が遅くなるように、点火時期が補正される。

【 0 0 5 1 】

図11(B), (C)は、開弁時期 I V O に応じた点火時期の調整量 ΔT_o と、閉弁時期 I V C に応じた点火時期の調整量 ΔT_c の一例をそれぞれ示している。図11(B)において、例えば「B10」は開弁時期 I V O が上死点 T D C の手前 10° であることを意味しており、「A10」は開弁時期 I V O が上死点 T D C の 10° 後であることを意味している。同様に、図11(C)において、「B10」は閉弁時期 I V C が下死点 B D C の手前 10° であることを意味しており、「A10」は閉弁時期 I V C が下死点 B D C の 10° 後であることを意味している。また、調整量 ΔT_o , ΔT_c の負の値は、点火時期を遅角させることを意味している。

【 0 0 5 2 】

実際の点火時期 T_{ig} は、例えば以下の式で決定される。

$$T_{ig} = T_{base} + \Delta T_o + \Delta T_c + \Delta T_{kcs} + \Delta T_{other}$$

【 0 0 5 3 】

ここで、 T_{base} はエンジンの回転数と負荷とに応じて決定される基本点火時期であり、 ΔT_{kcs} はノッキング対策として決定される点火時期調整量、 ΔT_{other}

は他の要因による点火時期調整量である。他の要因による点火時期調整量 ΔT_{other} は、例えばエンジン水温や吸気温などに依存して決定される。

【 0 0 5 4 】

このように、点火時期を吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O と閉弁時期 I V C とに応じて変化させる理由は、可変動弁機構 1 1 4 によって作用角の大きさが任意に変更可能な場合に、ノッキングが発生し難くなるように適切な点火時期を設定するためである。従来は、点火時期 T_{ig} は、エンジンの回転数と負荷とに応じて決定される基本点火時期 T_{base} を、吸気弁 1 1 2 の開弁期間の位相（V V T 位置）に応じて補正していた。しかし、作用角が変更可能なエンジンでは、作用角が変わると、同じ V V T 位置でも開弁時期 I V O と閉弁時期 I V C とが大きく変化する。従って、可変作用角の吸気弁 1 1 2 では、V V T 位置による補正だけでは適切な点火時期 T_{ig} を設定することが困難である。これに対して、図 1 1 に示したように、点火時期を吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O と閉弁時期 I V C とに応じて補正するようにすれば、吸気弁 1 1 2 の作用角の大きさが変わっても、ノッキングが発生し難い適切な点火時期を設定することが可能である。

【 0 0 5 5 】

G. 変形例：

なお、この発明は上記の実施例や実施形態に限られるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲において種々の態様において実施することが可能であり、例えば次のような変形も可能である。

【 0 0 5 6 】

G 1. 変形例 1：

上記各実施例は、ノッキング対策として、吸気弁の開弁期間の位相調整と、作用角の拡大と、点火時期調整と、燃料噴射時期の 4 つのノッキング対策を利用可能であるものとした。しかし、本発明は、吸気弁の開弁期間の位相調整を含む複数のノッキング対策が利用可能である場合に適用可能である。

【 0 0 5 7 】

G 2. 変形例 2：

本発明は、ガソリンエンジンにおけるノッキング制御に限らず、ディーゼルエ

ンジンにおける筒内温度の制御にも適用可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 実施例としての制御装置の構成を示す概念図。

【図 2】 可変動弁機構 1 1 4 による吸気弁 1 1 2 の開弁／閉弁タイミングの調整の様子を示す図。

【図 3】 ノッキング対策の第 1 実施例を示す説明図。

【図 4】 大作用角の場合と小作用角の場合の V V T 遅角の様子を示す説明図。

【図 5】 ノッキング対策の第 1 実施例の処理手順を示すフローチャート。

【図 6】 ノッキング対策の第 2 実施例を示す説明図。

【図 7】 ノッキング対策の第 2 実施例の処理手順を示すフローチャート。

【図 8】 ノッキング対策の第 3 実施例を示す説明図。

【図 9】 ノッキング対策の第 3 実施例の処理手順を示すフローチャート。

【図 1 0】 ノッキング対策の第 4 実施例の処理手順を示すフローチャート。

【図 1 1】 ノッキング対策の第 5 実施例を示す説明図。

【符号の説明】

- 1 0 …制御ユニット
- 1 2 …V V T マップ
- 1 4 …作用角マップ
- 1 6 …点火時期マップ
- 1 8 …ノッキング対策テーブル
- 1 0 0 …エンジン
- 1 0 2 …点火プラグ
- 1 0 4 …ノックセンサ
- 1 0 6 …水温センサ
- 1 0 8 …回転数センサ
- 1 0 9 …アクセルセンサ
- 1 1 0 …吸気管

1 1 1 … スロットル弁

1 1 2 … 吸気弁

1 1 4 … 可変動弁機構

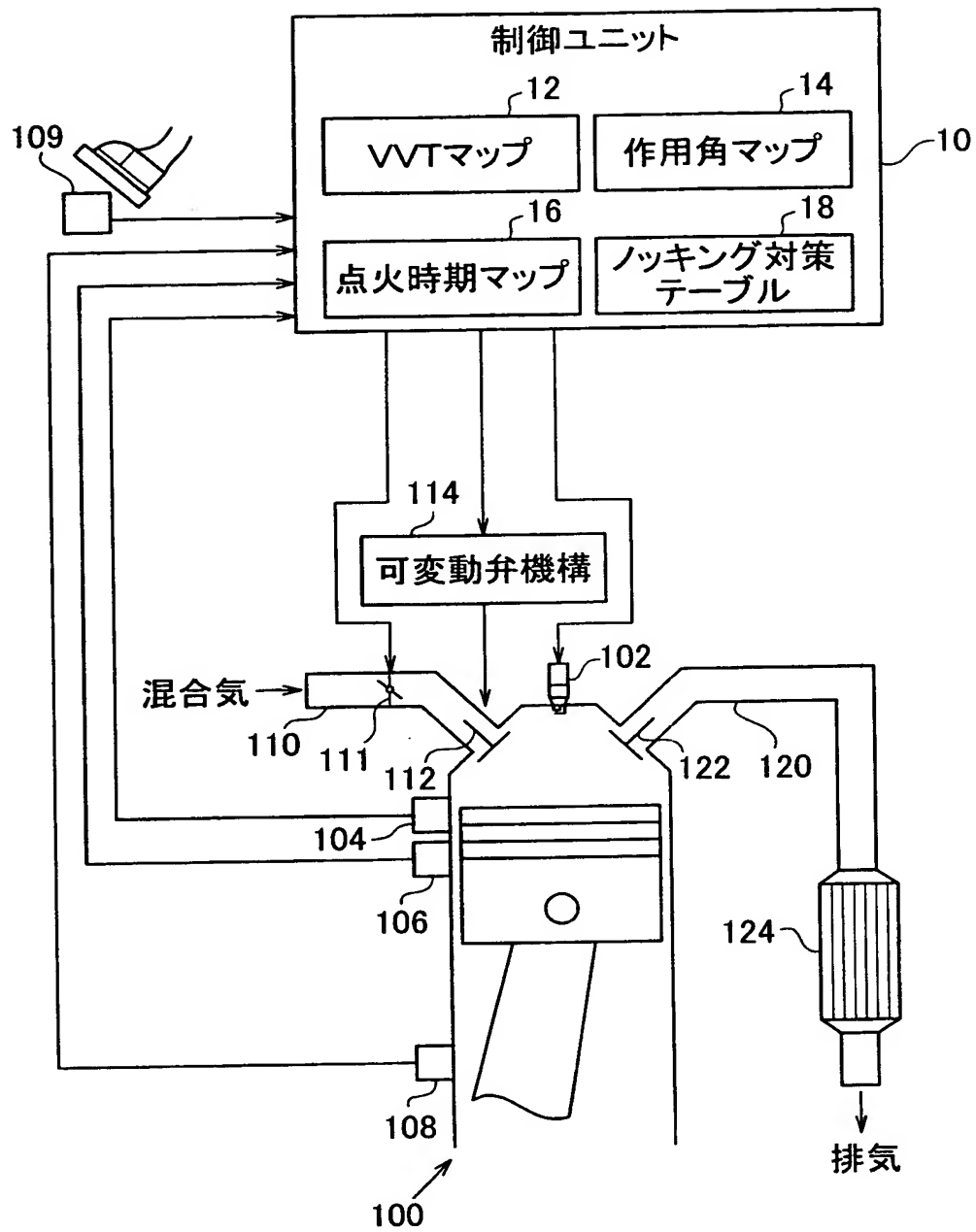
1 2 0 … 排気管

1 2 2 … 排気弁

1 2 4 … 触媒

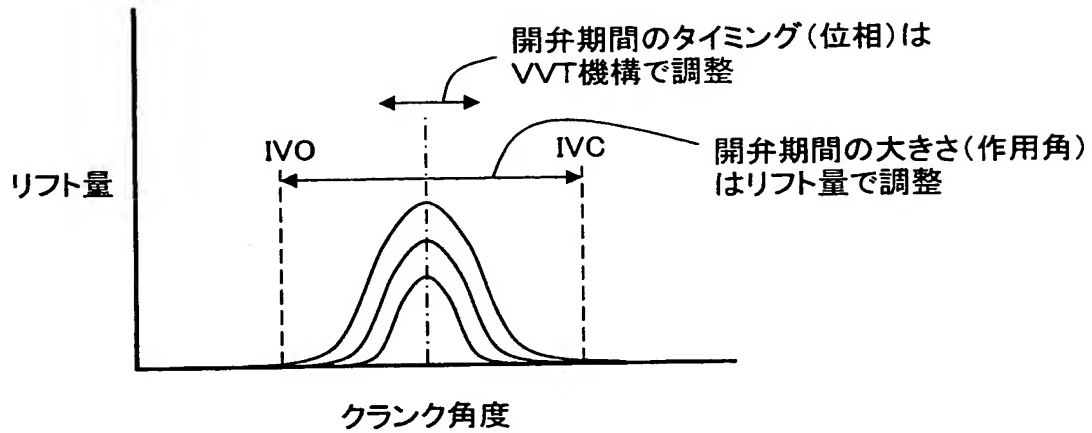
【書類名】 図面

【図1】



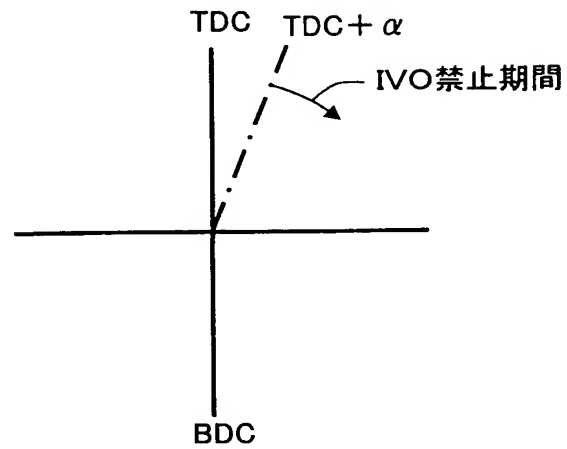
【図 2】

可変動弁機構による吸気弁の開弁／閉弁タイミング調整

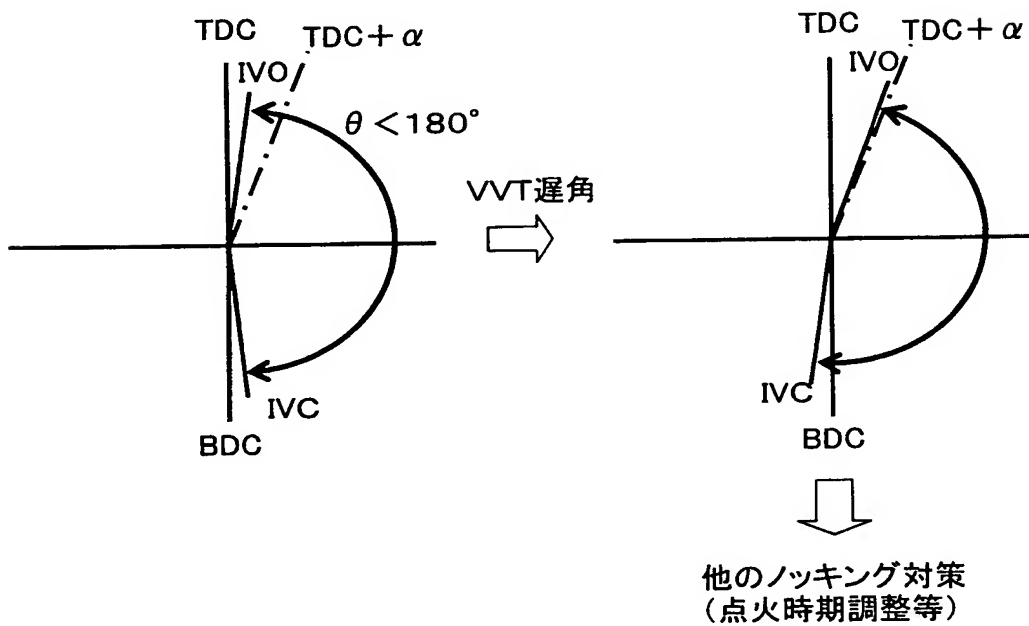


【図 3】

(A) 第1実施例におけるIVO禁止期間

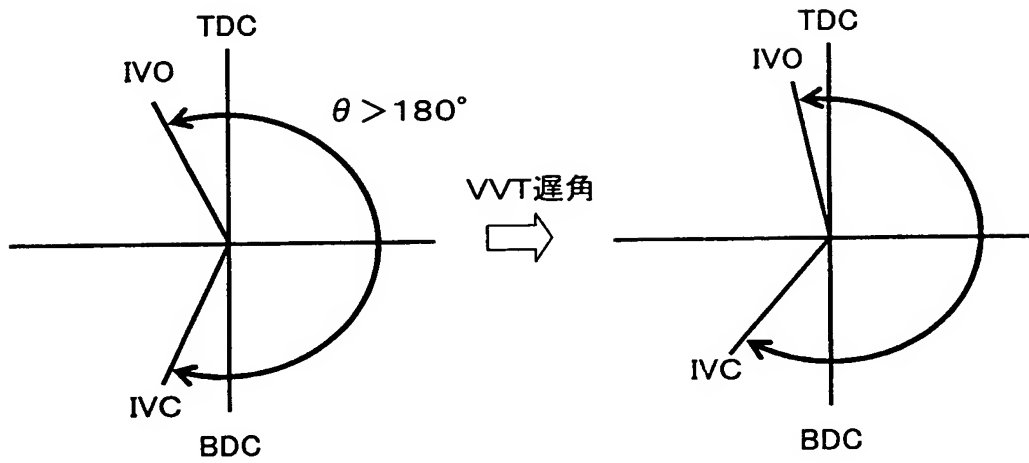


(B) ノッキング対策例

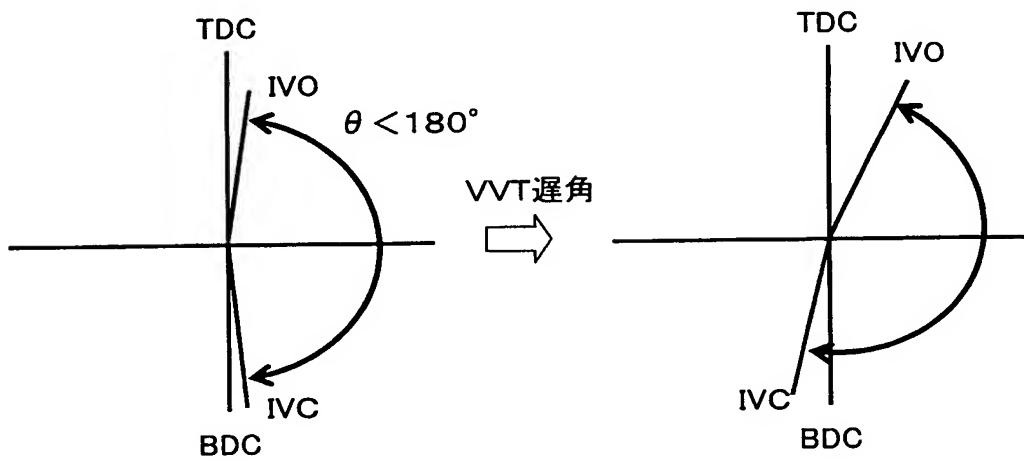


【図 4】

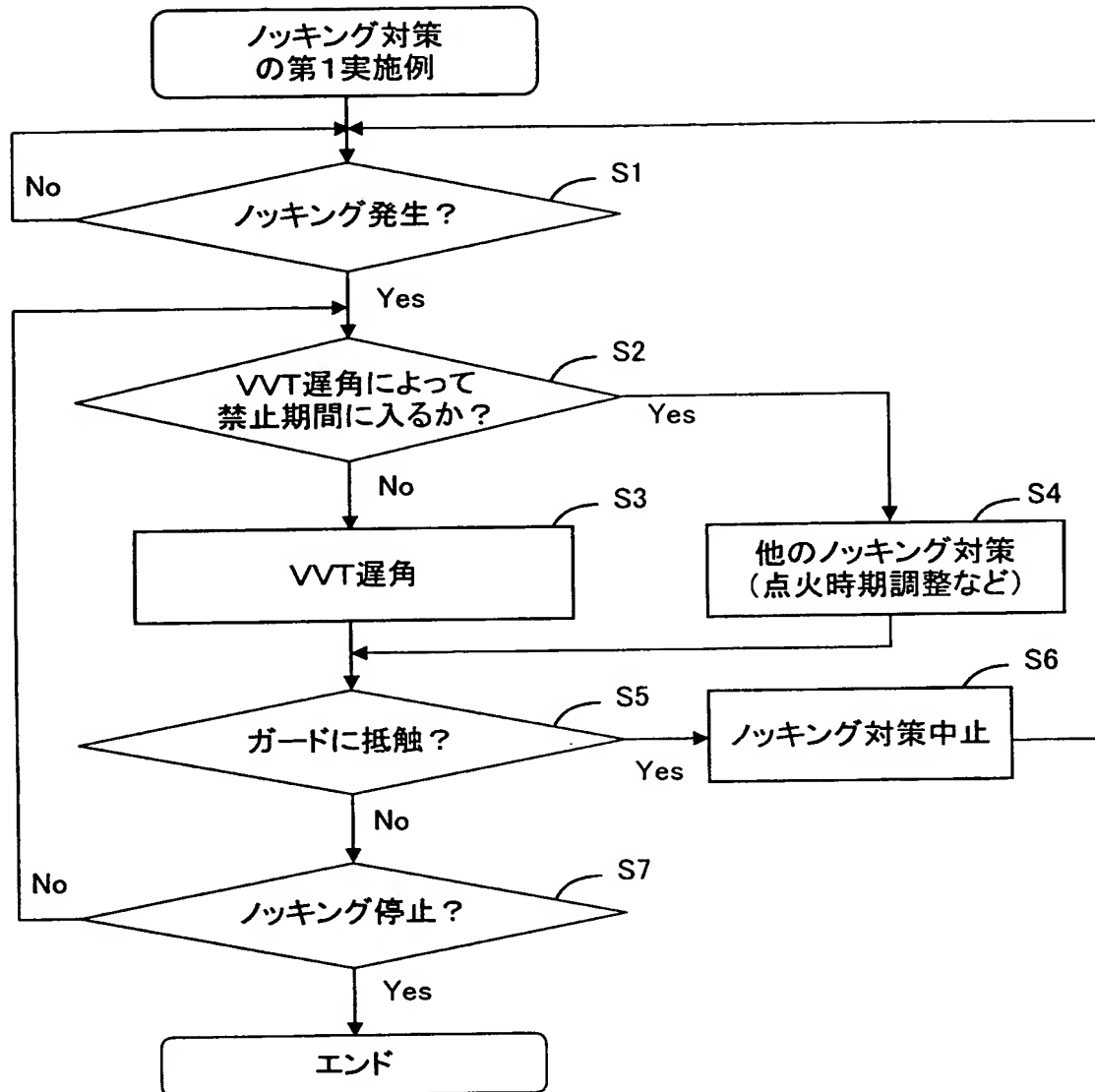
(A) 大作用角の場合のVVT遅角



(B) 小作用角の場合のVVT遅角

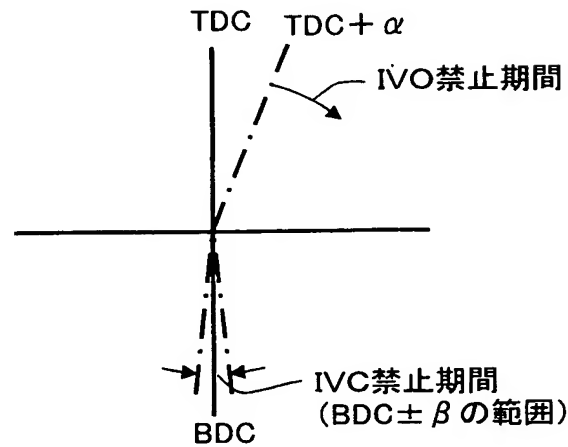


【図 5】

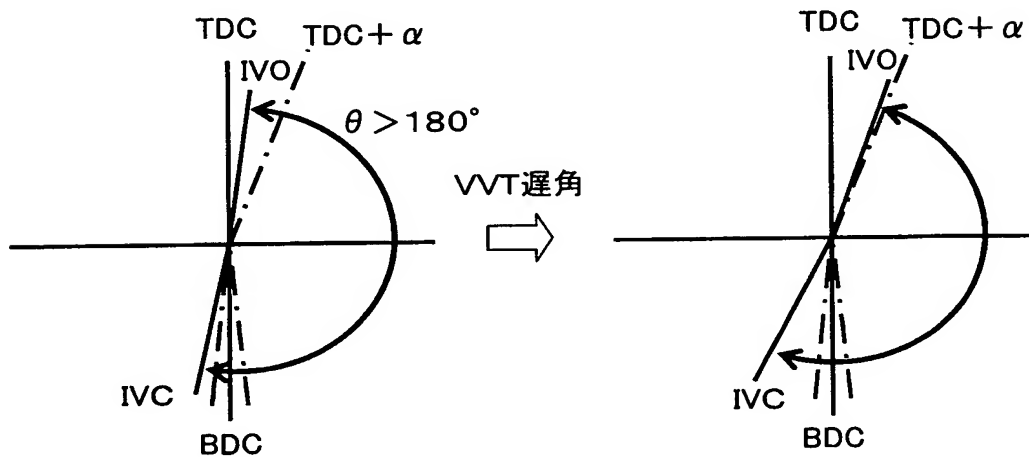


【図 6】

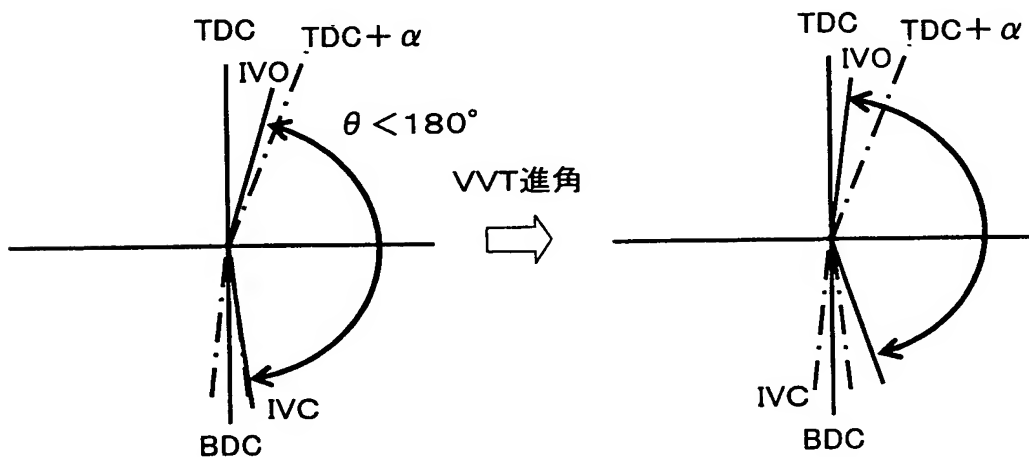
(A) 第2実施例におけるIVO, IVC禁止期間



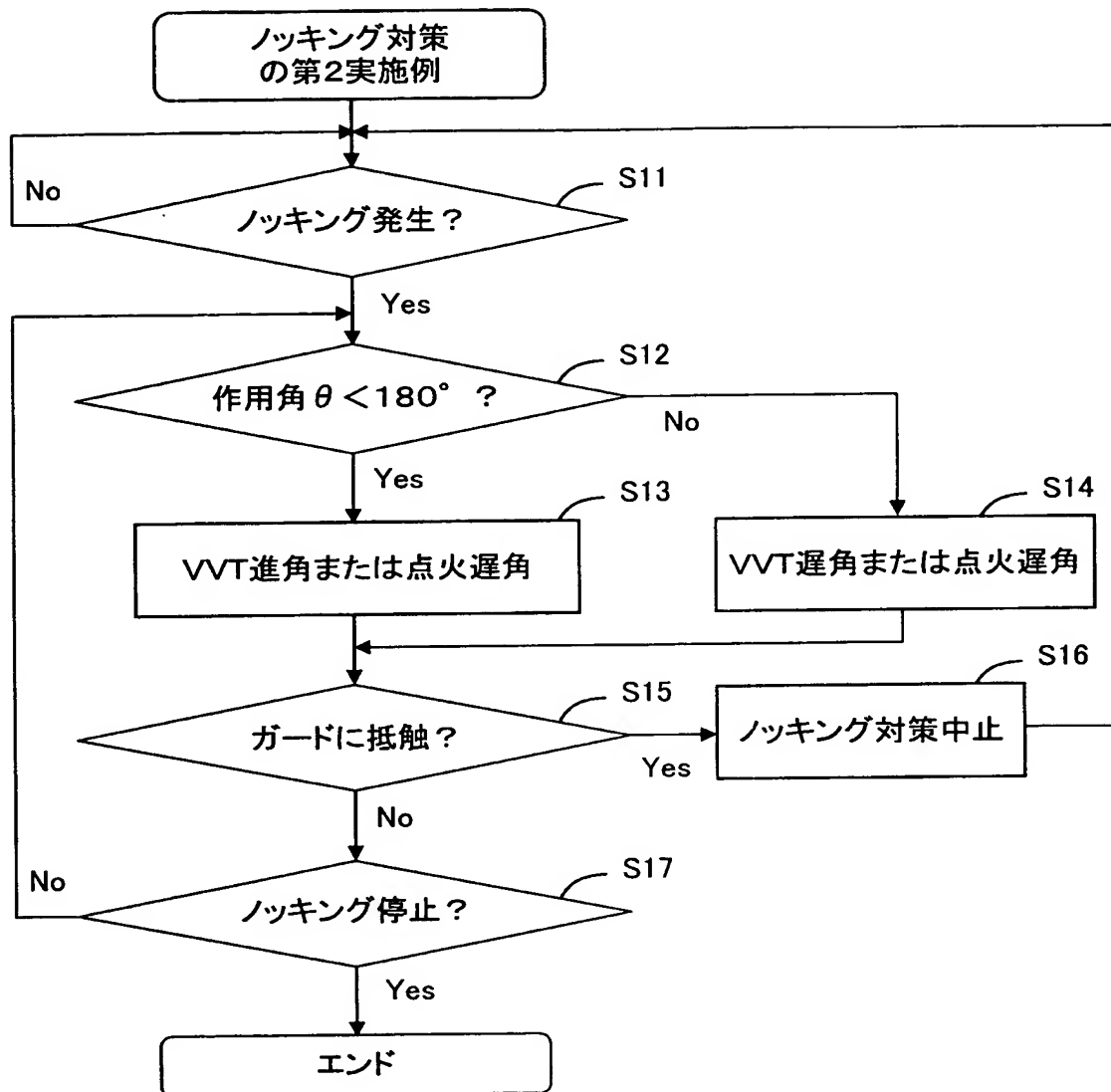
(B) 大作用角のノッキング対策例(VVT遅角または点火遅角)



(C) 小作用角のノッキング対策例(VVT進角または点火遅角)

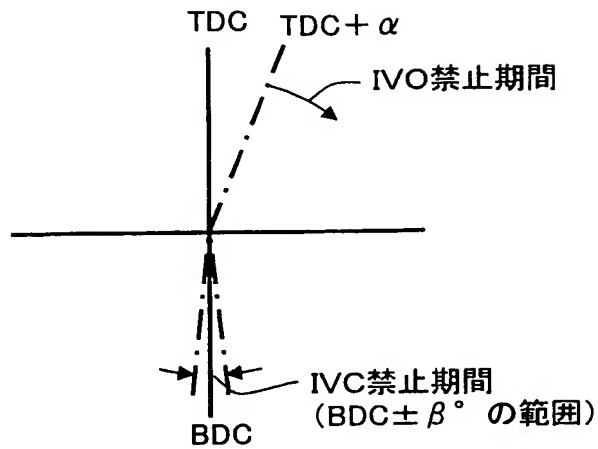


【図 7】

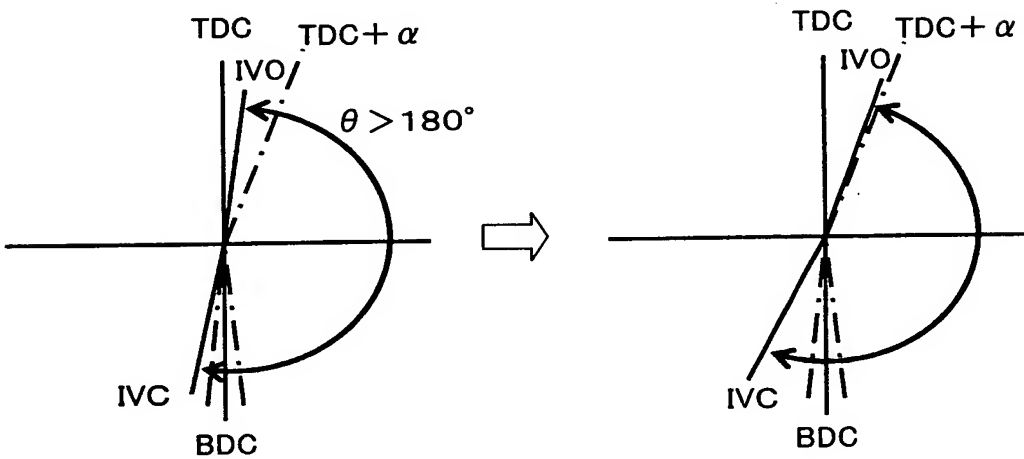


【図 8】

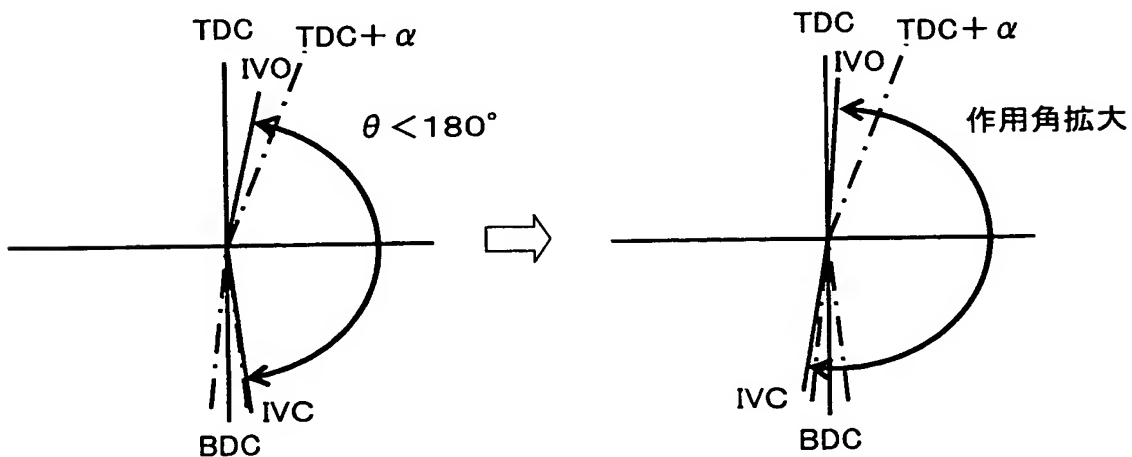
(A) 第3実施例におけるIVO, IVC禁止期間



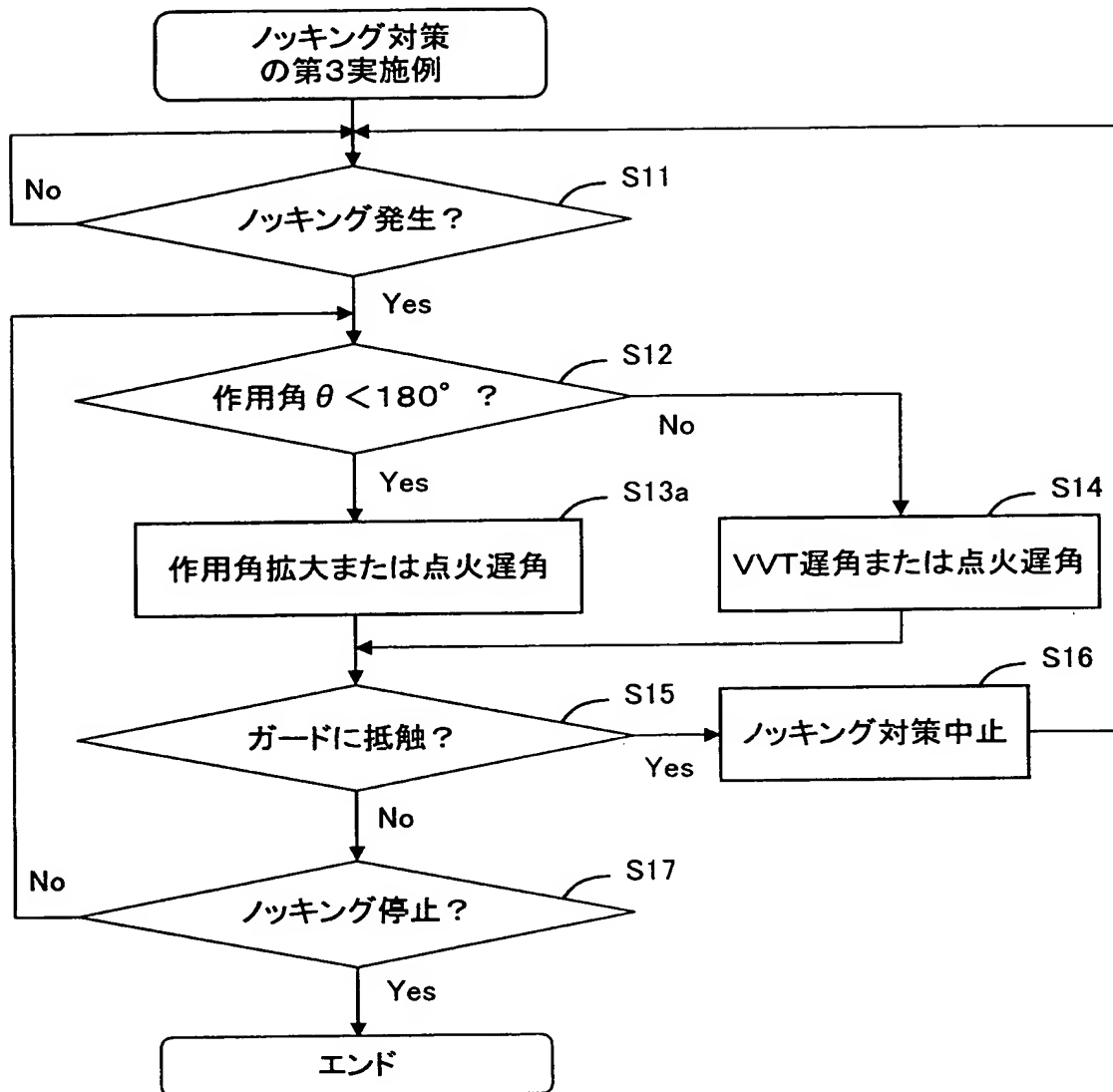
(B) 大作用角のノッキング対策例(VVT遅角または点火遅角)



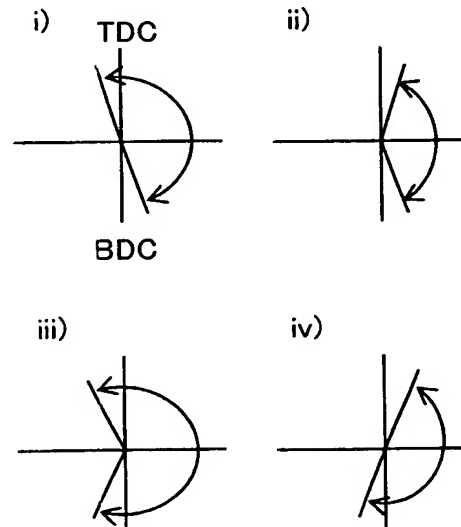
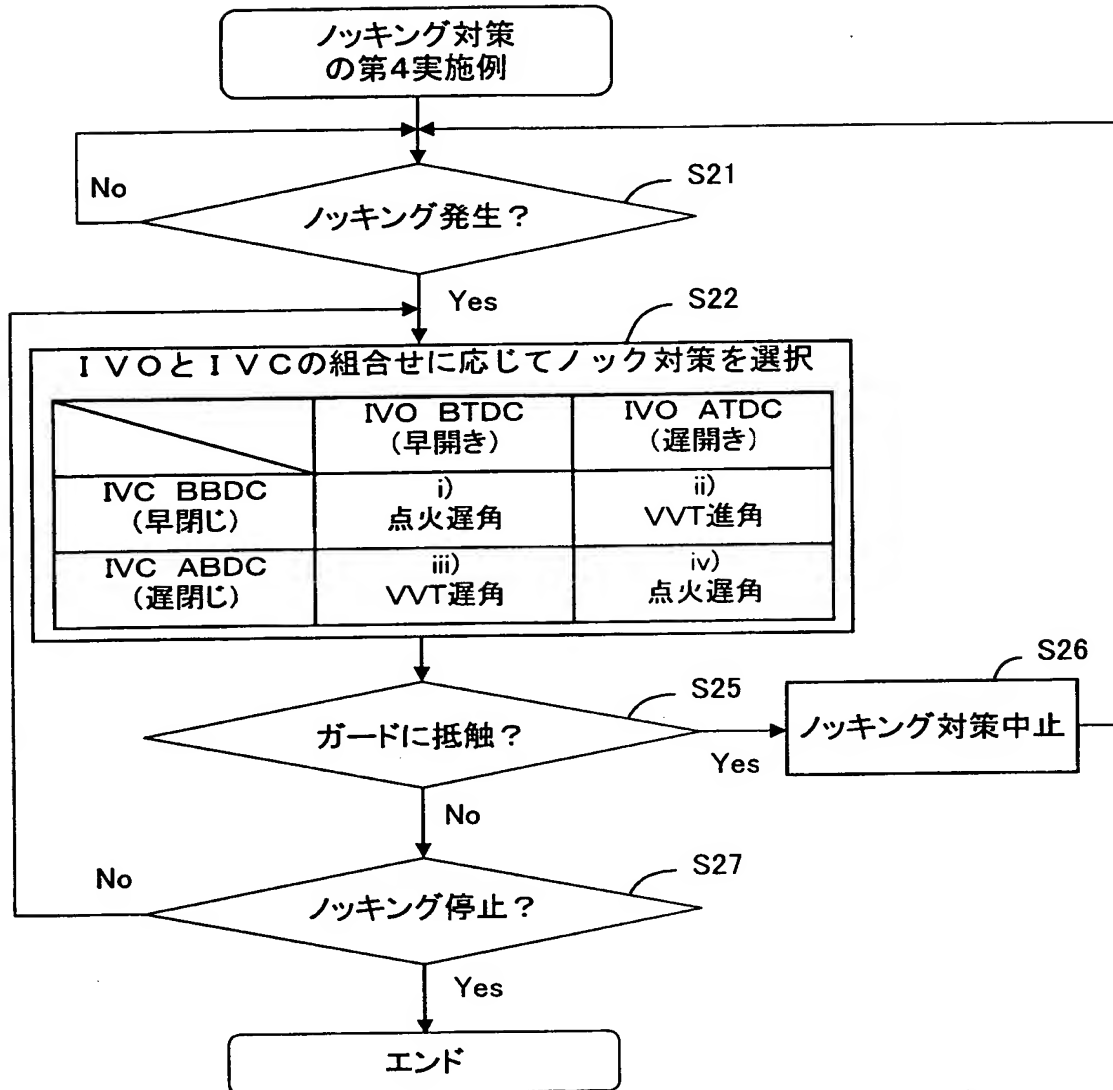
(C) 小作用角のノッキング対策例(作用角拡大)



【図 9】

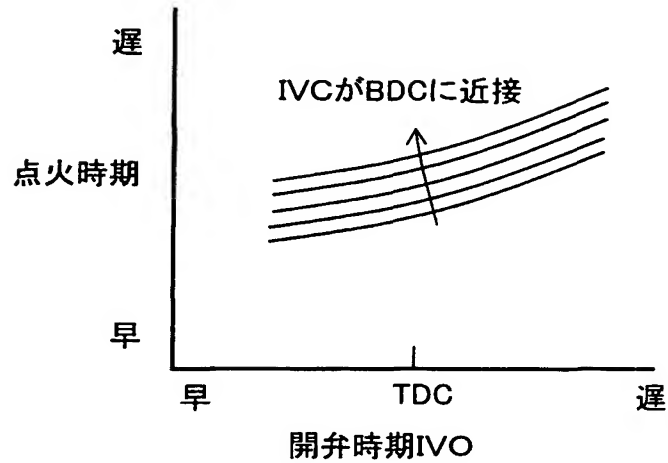


【図 1 0】



【図 1 1】

(A)IVO, IVCと点火時期の関係



(B)IVOに応じた点火時期の調整量 ΔT_o

IVO	B20	B10	TDC	A10	A20	A30	A40	A50
ΔT_o	0	-1	-2	-3	-5	-7	-10	-13

(負は遅角を示す)

(C)IVCに応じた点火時期の調整量 ΔT_c

IVC	B30	B20	B10	BDC	A10	A20	A30
ΔT_c	0	-2	-4	-5	-4	-2	0

(負は遅角を示す)

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 可変動弁機構を有する内燃機関において、ノッキングをより十分に抑制するための技術を提供する。

【解決手段】 エンジン 1 0 0 は、吸気弁 1 1 2 の作用角の大きさと開弁期間の位相とを変更可能な可変動弁機構 1 1 4 を備えている。制御ユニット 1 0 は、ノックセンサ 1 0 4 によってノッキングの発生が検出されたときに、吸気弁 1 1 2 の開弁期間の位相調整を含む複数のノッキング対策のうちの少なくとも 1 つを選択的に実行可能である。吸気弁 1 1 2 の作用角が 1 8 0 度未満の場合には、吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O が、上死点 T D C から所定の角度 α 分だけ遅角した所定の時期 (T D C + α) を越えないように、ノッキング対策が選択して実行される。具体的には、例えば、作用角が 1 8 0 度未満で吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O が上死点 T D C の後に存在するときに、吸気弁 1 1 2 の開弁時期 I V O を進角させる。

【選択図】 図 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 3 2 0 7]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 2 7 日
[変更理由]	新規登録
住 所	愛知県豊田市トヨタ町1番地
氏 名	トヨタ自動車株式会社